

【参考】

令和4年度 統合型選抜入試 事前課題

設問1 Financial Literacy について説明している下記の英文を読み、日本語に訳しなさい。(250文字以内 句読点を含む)

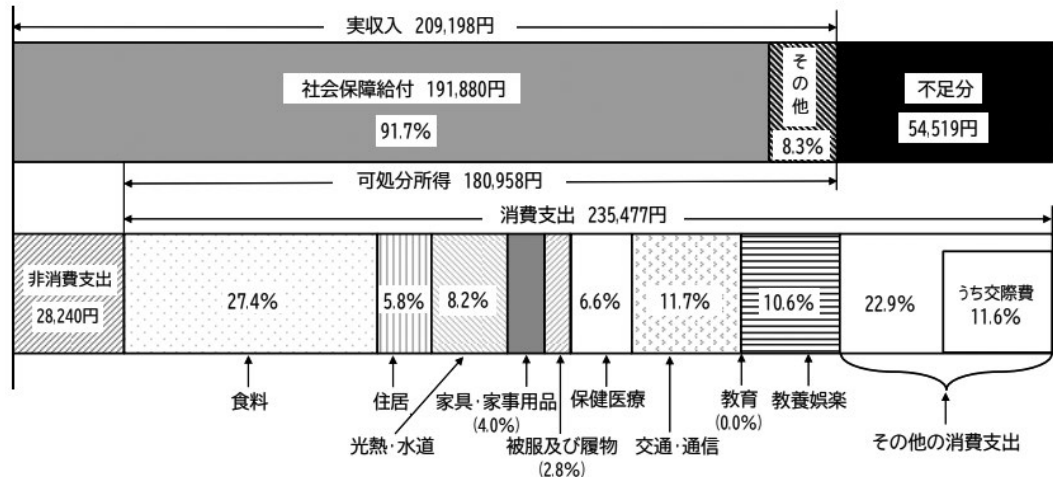
Financial literacy is defined as the knowledge of basic financial concepts and the ability and discipline to make wise individual and financial decisions. It enables people to know more about financial decision-making, develop awareness of personal financial issues and choices, and learn basic skills related to earning, spending, budgeting, saving, borrowing, and investing money. In aging societies, like Japan, it is becoming increasingly important in empowering individuals and their families to strengthen their financial management capacities and to achieve financial independence.

設問2 以下の図は2017年の高齢夫婦無職世帯の月々の平均的な家計収支を示している。この図では、社会保障給付などを含む実収入と日々の生活に必要な支出には約5.5万円のギャップがあることがわかる。この金額はあくまで平均の不足額から導きだしたものであり、不足額は各々の収入・支出の状況やライフスタイル等によって大きく異なる。金融庁の金融審議会の市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」(2019年6月3日)に関するこの一連の議論を参考にして、老後に年金以外に2000万円の蓄えが必要だと言われる根拠について説明しなさい。以下の3つのポイントについて言及しながら、日本語で説明しなさい。(150文字以内 句読点を含む)

【QRコード】



図Ⅱ-1-4 高齢夫婦無職世帯の家計収支 -2017年-



- (注) 1 高齢夫婦無職世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの無職世帯である。
2 図中の「社会保障給付」及び「その他」の割合(%)は、実収入に占める割合である。
3 図中の「食料」から「その他の消費支出」までの割合(%)は、消費支出に占める割合である。

【ポイント】

- ① モデルとなっている家計はどのような属性を持った家計であるか？
- ② 老後何年間の生活費を想定した試算であるか？
- ③ 家計の平均的な収入と支出にどのような仮定が置かれているか？

設問3 日本のFinTechサービスの取り組みについて、下記の設問に答えなさい。

近年は生活面であらゆるモノ・コトがデジタル情報化している。企業もデジタル化時代に対応した変革を迫られ、ビジネスにおいて「デジタルトランスフォーメーション(DX)」を進展させている。例えば、ITを活用し、eコマース等と金融を組み合わせたFinTech(フィンテック)などの新たなサービスが登場している。今後は、自らの個人情報等が金融を含む商品・サービスの勧誘にどのように利活用されるかといった情報・金融リテラシーの向上が不可欠になる時代が到来すると思われる。では、現在の日本では具体的にどのようなFinTechサービスの取り組みが進んでいるのだろうか。以下の5つのキーワードをすべて使い、日本語で説明しなさい。(600文字以内 句読点を含む)

【キーワード】

「QRコード決済」 「クラウド・ファンディング」 「信用スコア」 「ロボアドバイザー」 「家計簿アプリ」